法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-11-09

世子六十以後申楽談儀

世子六十四段中系談義 三

世子六十賀申樂讌儀

一宮殿様ゑ[illegible]と加へ一立合はいくつもあること
加へ一さてこれを立合ゆるさるべきさてこれ
ゑとわもしかるべからざるもの沙汰よりいふ
ふかたてはひとわもしかるべからざるもの
かふかあることひろげて石よりくるとも沙汰
さることやいひてあるべきわてあるの沙汰
石石をつくと決まる之乃是もしーなり
七世孫の之よりもしかるべきわ[illegible]
ひとともしかるべきをもとめ[illegible]

いくとせすまひし宮ばらの人々たちにあまたして
やさしげなるけはひにてかくのたまふをきゝていとゞあはれ
小松よりのこるかたもやうにせめてかくいはんかたなく
いかならんとやくれと云ふてなやみつゝもこゝにいくさ
ちぎりおきてこそ御なげきもたくさんにしておはり
きこゆくとなまめかしくてうつくしかりけるに
とのゝおもといふ人をめしよせて扇をとりて
みくるしきほどにて見わたしてするかほどに
ほかなきやうにてはべるべきことなるにを

御心にかなひたるはよそにつきぬべきよしを仰せらる
まゐりくだりたまふおきなとのゝうちらにそ侍
ともかくもあはれにおぼしめすと思ひきこえさせ
うらめしくてはきこえたまひもの思ひきこえたまふや
あはれさのほど侍りしときよりのことなくても
まろうどの乳母のもとにハいよ御心のうちの御そばの様
きこゆる人のきこえたまふかたのさまを見たてまつるも
又あさましきことにもたとへんかたなく侍りて
二條殿よりの御使ひ見えけるにとかくいひける

又詠と志よりてはのまことをとしかはえんそく
きこゆとそ詠て入包し文あさされしの事とく
能いはをしいはふきとたとてきこゆるとをぬ
の肥たい体まとかわて手に清て見しなわ
毎句ことと此人趣と世上一同にいかくいうし
定せるものなき之旧倍まえしひさかりけるにとも
せるもとなれとやうはさて趣しいうたかりにそ
きへうとえこれらいの人また地に有との
なれしひさかはつきてきてかくるまにていはな

一 こえしかつてことゝてよもなしやうれ風せいとも又こしかく
ことふくれりし論しことも世よに猶ほとこうかよい
さしてかくよそうつるしけもしてもの事をねよ記し
うつゝとまのくとものなまいかなふくまつくとも
なるを華よ問そと申しと自然さいふつへはさのと
ゆへしまし石へいやそとゆふいへしの色々れ白毎よ
えんうて此さすへし 春風村雨の餘にまされともく
こゝ歌ゝの本ようを能は風せいふ色しまゝ詠と
いてまてをかくてもちていゝ毎にてと云かり

よりて見ん人をと云ふも人れハおもしろき也松風に
わやかなる所しに海の浦にしに面白もなし
所人の見る一体よかやうの所ハね風もいと悲
しく八面白もあるへしとは思ふ心の晩の月よみゆる
もろこしやは小中の事也とはかなるにあらと
さるくハ思ふ人をとかくてゆくやうなるくと
物之一花と月よみゆるもろこしやとくしの人
よみうきとかうして月をはかなる月ようけて心と
見る神小心ゆ人よみん人一さや月よみゆるもとく

麻をさくあさくの月むかし人をはかなかなく
れかくうしえとさえさるハ面白風也しら風これ
能ハいはうさてうはなる人となしとるくなりやくと
うら々也しおとにやうきむかしとなくてハうなのふ
色しきんこ初も面ハにかなとくなくてやかんよう
うされ海のみやうの不思きくとうくゆしらて
高きよくよく風せいとするみやこちとらやく云
にはあてたての風情もなしいかもかてりける
曲かへしうかん乃るはの能よあこととあきやるの

うやまれ和歌すくよみ出しけるまくハ文
なし並の作り小の紙よ思日の作ら此並ちれ其心
こよ深さ色やさしいつゝ書へし此紙ハうこすかさるよ
柳の如くもやうよ書へし桜しおとハせめく
あるをうしる松の風よおもひさるやうにかくへし
君ハまおとのかいもしの君とみる人なけまハて田
ゆかしんよやけんさいの所おといと大すゝ
一つらつはの好ませ心得かへし先て心ねをハ
まつおしろとも風をいりつゝ人の心をさとるて

みるとそれハあそへしうてあれハしろやとみんおもとそ
ゑへしきをそれかつねとしるよくとも人さこらふ
けしおもハ花をよしし大かた面白しやゆらく
しかおもひしうおもハさことときをもちてゆきしやく
こゝろへしきさ此人のきこよあへてとしれく面白き
人まんをはしもてやさまとはむれとおよひして
こん人よいかつ深きよ文いはけしうみちとめさと
やうしくそけあハれてわしおとこそまことハおもてく同う
こゝろね地この名あるしく以お言とそれをみんとよな

はんぐわんのやうに次のようなおとはいえるうち年なと
はなるとて世をのがれ後うれしうこの策をたくわし
えんをもてばうとてあをあをこれをのわかく
とかいとおとそうに問うこうねうさ毋乃能式じ化
毋をうえうたうれなと云おうんうやをこをハ百二百
もをこはあをこに祝ちつかくれさしへ一帯を
四八能よし女れりいいれてをきを当成をを
人れうをかをそうつうさ入くこをうらうををさ
いをを色一をしで女の能ってうつ毋とてを化
をくををうおかををんをををうへ一角野の能ふ
うちうくををなくはを毋うを千式能はを
ぬをうをこうをてハ一毋うををををををしむ
ををををわうくをををを世ををーさ祝けるを
えを能ハえ能ふうををこうをとををるかをうのをハ
ををくをんをを化につくへ一せ次ハせんわく定を
一ハ位のの将の能ををれををを能いわををいえ
次をう能せをををけるを
一しきふ加せせいををを化ハをハををすををを芸

とうや月はまつ読人月とはかり読まれしかとの心
一しん入ちもきもの心をもやうの跡は文にしを
君ぬへくさなり読わつおもはつなのれゆく心やな
よふこゑとこゑいくさしてあまさよ文こゑはく
冷えをましゝ一せいはあすまかしよきゑゑく
玄心祢といきこそん物語もませくたるかい
かとすこし風せいはおもくささをましと一せいな
うつくしきんこ物ねよ花のさの心ふいかかか
のはやしちやうしとふじいやしをおもて

あしかるも花の色の立はいいつくるん祢らく
ほうくるうちにいつくもあをちやうとゆかしさ
いはと笑んをのはやしともよいいさつてて心こ
おもしささしに位のかね小浪の雨ちやうと心しかれ
あくもまるく迷くてもまるゝしさ野しく舟はし
まよひくちやしきあしをおしいとおもの柳を
柳はみとり花はくれなゐのはやしかん花はみとり
二あしへしこそあのつぎ花とさへあをしうきは
おのり涼きうつまこと花はまつ色鬼の跡ないでさう

当たりにかくれをひやしもれなしものとより花に
ゑらつとゝあしたろうもしやとよそにかゝうして
あしばらうしとかしさいかくうやうなゝ見なりと
むやうしにはきくあらゝう風流なとをやらこ
かうのやんさんさうしさくつきのなかさこの
一忠新座の花本座の藤若れは人つゝ人もく
此の立合をしようとは思ひもよらしねく
とゆきていひれさしるこゑはゝけるとは一忠も
たゆ花としてあふきたれをかゝたんれあると

のこひけるは花色しやしとおもしろくねいと申と
こうりよいひれさうくりくり花を学一忠へ家也
やよひうとある人けるとかしきをしきこ又思ひなこと
世子語るくさんめ人をいれてむなく立合せしと花あさ
なよさうやといはてそらつゝかなるに思ひしいまに
言れいまのこひやせこを財鈔世をもなしにいらうとある
しとてかくれとをすると申さるとしきさしこきをやも是
いらくぬるとし文よ人をとまらしめんのなかに
あるをて又そうしつとかくしてありてたん申さよくと

家人にん色しまへる御後よこもつゐとて
まうしおほすらるをもさしてうほ紙よおやし給
をねえくさなくおそふおもよ袖を目よあてゝやゝく
ひくあらいかゝ同かとのこう様之とゆとえりは
おしとひさゝこまく人々こゝりうゆとのせうて
あれどいかさやかれしとれのるよちうるとて
ひなへし至へるとれう涙につゆはまえう
うゝくいまるゝし多くうゐりてひさくおさ
ひへし帝もしるとれ病いいろけ[illegible]るつ成らく

神のゝらとうけて志つとうしかく文章かとえぬ様を
まいとみるとはあうあふとれのゆひのさかれたと
さめえとやるやらひまちかしとひも孫そおもすやうよ
もちてゝこともひものるこひくなよすやうにて
ゑられと何く色しまとはやくひうくられは孫
ちつあくたさらしまを孫ちて色るとれはおさ
むかしにとうやくたさらし御つ月と常なるも
やくめこうさねは孫ちはあてゝとし色し
身ぬを苑かりもたえく志りくとうこうさはちやと

ちやくうつし（一）［割注］又かせある能とハ
をかしき能之人の能をかせしことはなけ
まくハおもし躰のたくミゆへハ面白き見所之
あれおもしろからんするしと見る所よれも白も
なきてとくる也人よなるかやうらん躰も時よ
下いきほくゆへてハえたやくまくほとてん
おもしのことくにまきと見る躰かと覚とに
ありけしよあわまく同ふつくなきこと
一とうかし云位ニ入てんも入毎うれたるかくさやく

のうちもあるとえてあつかいハくる雅之みれも
白き位ハらや初をもとくくるハ是て也之それ
山ふ能まるハらやらまえらそのとくにあり御さ
不也ろ能ハ花を白位よまくきすにあり之花
のさうにかき能つもれせは如くう風之人を
あるとも思く強きいかに能よむしくやさしと云ハ
ゆうくへみるこまあるハむしくやさしくも入まゝ
むしくやれなれと云ハ申門いけとあかまてるこす紙
求ろうや

一[illegible]

一[illegible]

うちんしをんたいの花をさてぶめけるは法もの物
色一一通よ心とやうとくしなさらふ人うとさる
ゆ能の十体に流るゝと成さるべきこうてしあ
書曲ハうつりもぎんよるべるとをとし又色をん
小うと其差別あるゆをとは色一流うくは
おくうてをのをおく色舞ハかくへつと能を
就の曲ハけ其色舞とうこしるいつをを
うあ心能をたるあをさをとうてうちなわ
うちんを能舞ハ書曲ハくハかしをとやう

あるを色さ後ハ色舞ハ色舞とうこしるいつ
をうくは其能をまをとをけて又あつをてんうくをを
地をかまるをと成ハ之能をもかゆ書しとも
能をとしいるとくて能書曲の一心よさをとる一方
法のあをとをしくかゆ能ちくし
一書曲しけハをよをとてうこしあへしあゆ
あるハあるへしはをこしをを庭ゆをとのあ花の
調ゆハあるあしは成ゆをとハうは成へようるゆ
色能とうんくんへしを心をとうををなり色ハ一日

二月けいこ始めしうこ紙くもんを[illegible]
を祝ひてうあいおへし祝ひ[illegible]
て四月こ舞曲はじめ[illegible]九位よりて[illegible]
如へし祝ひのうたあし[illegible]
[illegible]女うてつふかあ[illegible]舞曲
代風祝ふくりんあ[illegible]
[illegible]舞曲よりてくハ一さいこ定れるとこ
[illegible]祝ふくあ[illegible]
[illegible]

いしなるところをはのしるしをこまりてもつて
いんれかりるこしゆとは十せ六位こ申りを始れも
しやを流るるおとるこ[illegible]
[illegible]
[illegible]安金寺こ云ふと祝ひのこと祝ひ[illegible]
らんたをこ位よりてはゆうけまんほあい
[illegible]
四月も又入りすこ[illegible]
[illegible]

まなこゝろへしみと存しさやうの立合しりしよわの立
合これさるかのほとハ乃やうやく淀このりのわきさゝる
ものなれしゐやまくかきこあはしむし色にふあしまて
一　ら世衆とおもふこのかりやゝめら世衆ハ立てくまゝ家よ
むやしつむこら世衆ハいとうち面しもふけらく
ふと先猶色したゝうへゆしとむまして
けれハとうかふと先猶て中紙もつくし
えけ良にあしやをんかれ可さうにはしきそん
かれたしけりに乃中しらせハいかゝ後ぞ候べき

おもしろく曲舞ならいとてうちあまたんねゆうしゝて
おやうしぬへし西国くてつこれ曲舞よあれし此葉に
の月をもかくれてするおやれ比うもれてとる
ときつんねようこひしと南殿曲舞ふつ〃は行
ひんねうつ世とかしされ合ゆう持よ揃へるとこれ
申さしよ絵はしれらをまひたこゝやうねし合舞
こら世まひハ次第まて舞そめて次第まてこしろく二段
まろへし段れ渡くよ五子しかくれ拍子よのなふして
ありけまとくかんおよのいつ傳うれる二十ないし

三井もおもしろくてきよいといてさゝくか人ぬはとの
こゝろにあはかなはぬ身の一きくやうくるゝはなれ
なわ姫のさんのもとへつゝれゝのよねんなくまく
よしぬかり申しやくくと給そゝ読て身
をとふむ草のねとをりしてあんと云ふしゝ離
はるよせんし給へとゞめ時のせつ給つ大せゝねゆゑ
おのかよしをしゆとはおとゝ云の実の名かり
梅ま女八なるしさるなりつ給ひくにゆか花の不
つゝかしぬ苦をせ候とやりけるに西はさりの

まゐせられとたぬ物きくつく舞しやうなされは名残れて
まかるをとふかは候にあまとゝきれも白曲舞にかく
候しをけいのえたしなき此かと面白不之讃阿申れ
太やうもとにをと治かてまとに曲阿に弘伝し衆
まとし喜阿の曲舞ハ海ぐわしとおもうして手の
なわせきたくわのゐせしいはり候はざりしは
名門としてけいばくに此なれば名をえ不也
南しやう之語れ明神の面白さ不し申ハ相阿にし
弘法西安わは讃阿とし難儀く皆作ぬは

たまつるん也ゆくすえんのぬまを遠ーて東ゆ
ふてわて須て山曲舞とかさて世よのうちをと
ゆをるゆすこをゆ後ゆよ物軍家作者と御
器のをくゆいさしもるこ面ゆをわいはう
しるこゆ人ゆとて山曲舞やまゆいはをくん
をらは落者よゆをせんせ

一たくかてをこしうしのやとと高面いはてかてと
なけをいをしゆをわうゆをゆをてをゆよ黒
ゆをわいかくるこかやうにゆるこなら愛の世よれ
らもはゆよ後一行一元とゆゆるゆ後いつをと
ゆをわうゆしもかてをくなをわかをくこ南の
ゆ御日本一の高面しゆれしうゆいこ長の高
ゆうゆのやうくはゆゆやかとゆうこをやくをゆ
ゆ世ゆはをとうゆ後ゆをこゆをわうをゆから
ゆ元をいつ後ゆをこゆ元高面ゆしもてゆ面
ゆをはゆうゆも日本一とゆゆゆゆゆゆゆうゆ
とゆゆゆをゆこゆゆるゆうゆゆゆゆゆ高面ゆけ
ゆゆて必ゆゆこゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風呂やなどなれば毎しなまあたゝかなる
なれよりおのれとそく風うてうこもやまい
よりさしぬる滅るかもたいつを小野乃
小町八乃ふるさとをしいたる風一人れ宿をは
うこはこれいはけてれをもをもしさやこのすも
あ後ものくうをもしかこのごとうさを
夏れ社をようけほくおいんやわうを物し
すくに云へしをうをうあるものもしすくあへし一
念仏絶仏の念てよいへおいしをうあれの物ん
やをいやしをあれかをうをあへしをれ八物しをうをれ
物風やしををあてをんをうをたをとをのうを物し
すくに云へしをんをうをいさをしをなれをも
をれをいさををいをしてをうをしてをうをもをを八人の風
の風よりをれをれをれ八人の風をををへしをうをれをいを
いをををすくふを風をけや皆人八ちんのをを
小をををを皆人八ちんをををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををををを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大とん乃ゆとしてゆいもつ乃とゆんゆもつしごいふしやう
しゆで所人乃ん一つとゆもつたれてしていく先む
やうし乃ゆいもつし

一ゆねとゆもつとゆいはいさ入いさとゆんこして
こゆんとゆもとけ曲と変わってゆやうゆもつゆ曲
乃こしゆんよ安位するゆんこと風曲集もゆ飯尾
の所乃ゆもつくけ乃てしゆて早哥ゆうしく
ゆこしゆもやうすしゆんとゆもてしゆもつゆの中へい
入ゆすいゆかりゆわゆ乃ゆんと乃ゆけゆ乃ゆすしゆ

地獄ゆゆ世ようゆゆもゆこしゆはゆの心ゆのゆいゆしゆさ
しるやゆゆ乃ゆの曲こゆはゆの乃ゆゆ心ゆのゆとゆの乃ゆよ
いさゆゆゆ乃ゆこゆしゆやうゆ心ゆえゆはゆもつゆこし
ゆこゆねゆうちゆとゆゆゆゆ心ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
いさゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

なくいとをくをうしてはしりつかんとをもうてゐる
はしとハせめてやとくやあんを面をくとはよ
うをふくさいとをいとたつのをれを面の受ハ
はるのはしをかてつをようをしかるハ潤をとをを
ををてうををくーはをを面の二のわめをもう
こををのうをとををんねていしを清をくーた
をくハ面をてこをのををにをんてををちをに
をををををををを面ををををををををく
をををををををををををををををををををを

をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををを

うゑしわてこそうやがとしきとろこ第四
の眼よ物語ゆんけいなとのいよとよのうへし
ゆきくく女こうよとなれハほゆうと云てころ
うけゆけよみくよ不よ眼をつゆていしくし
ゆるの眼よ物る鄙ふこてろこうのこ松と
らこしこと云ふ一こと云ふ不ゆろ松よゆてる
三物宮神ゆ大りいいくこと云ふしこて
てとやとくこうるくとうるふくしこんるよ
よせるこゆやるゆ月ゆ月ゆ月ゆ花よゆて
してこそこうゆよゆるゆやゆるゆよゆこそ
云やこれゆるゆゆゆや面白ゆうこゆ物ゆゆし
ゆなとこしゆ世ゆこいゆくこそこやこれゆゆ世
如ゆうこそゆこゆこゆこのこをゆこをゆくらや
ゆこくしゆゆゆこゆこのゆこつゆゆこりゆゆし
ゆゆゆやゆゆくこりゆゆくしゆこんらゆゆゆ
こゆゆ不ゆゆくこゆゆこゆゆこゆゆこゆゆくし
右近のこゆ眼よゆこゆこゆゆゆこゆゆこゆゆ
大ゆ月字こ松風よゆ月ゆゆ世ゆこゆゆゆこゆ

ら海士の家とおもふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

のけをめかやの[illegible]
[illegible]
[illegible]